

2005年11月15日
於:環境パートナーシップオフィス
持続可能な原材料調達 報告会

イントロダクション: 発展途上地域における原材料 調達のグリーン化支援事業

サプライチェーンを遡ってみれば

(財)地球・人間環境フォーラム
満田 夏花

プレゼンテーションの内容

- 調査目的・内容
- なぜ「原材料調達」における配慮なのか
- 原材料生産の現場から
- 共通する考え方
- 問題解決を阻むもの
- 解決に向けたヒント

2

調査目的

- 生産地の環境社会影響を考慮した、
(より)持続可能な原材料調達の手法
確立に向けた検討
国及び企業への提言

3

調査内容

- ✓ 原材料採取・生産にあたっての典型的な環境
社会影響の事例(木材、パーム油、漁業資源、
鉱物資源)
- ✓ 上記の影響を緩和するための手法、成功事例
- ✓ 買う側において、どのような配慮が可能か?
(調達方針の策定、生産者支援)
- ✓ 「議論」を行える場の設定
- ✓ できればパイロット事業 実際の調達方針策
定

4

なぜ「原材料調達」における配慮か？
海外に多くの資源を依存

5

日本における物質フロー



6

日本における物質フロー

隠れたフロー：

国内：10.9億トン（採取の0.97倍）、
海外：28.3億t（採取の3.9倍）の計
39.2億tの隠れたフローが生じている
と推計されている。（環境白書）

隠れたインパクト：

数値には表せない、生産地の
生態系、地元社会に与える影響

7

日本国内のみで配慮を進めても
海外で非常に大きな影響を放置して
いてはいけない。

一国環境主義では×。

8

なぜ「原材料調達」における配慮か？ 自然資源、生態系の危機的状況

9

減少し続ける森林

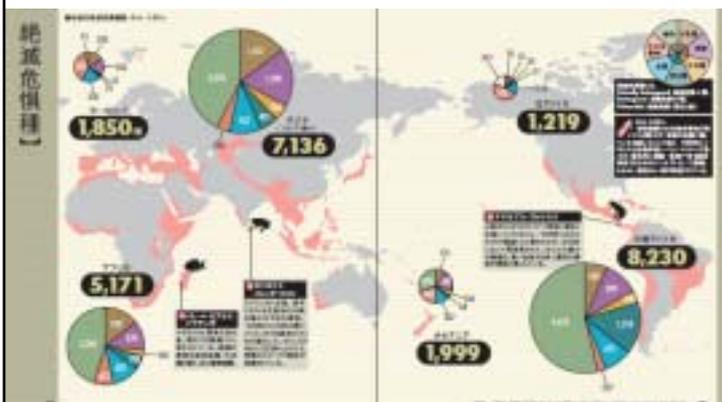


8000年前との比較

- 現在2割しか残っていない。
- 毎年1200万ヘクタール以上の天然林が減少している。これは日本の国土の1/3の面積。

10

失われる生物多様性



『環境要覧2005 / 2006 地球・人間環境フォーラム』

失われる生物多様性

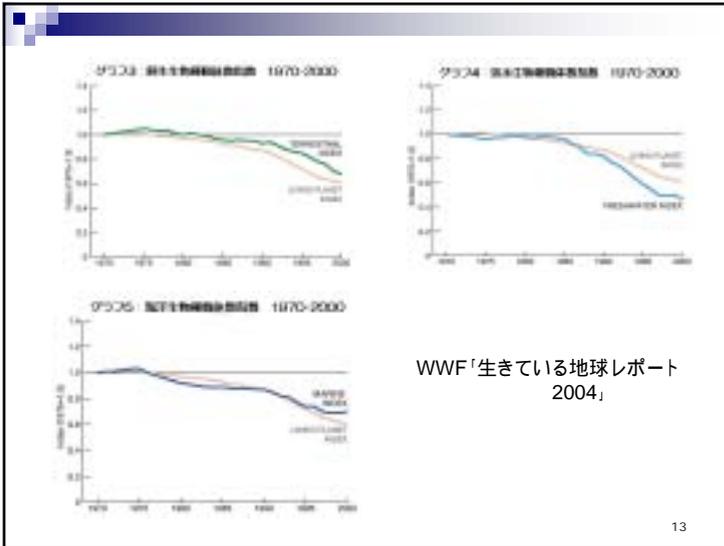
自然状態の絶滅の100～1000倍(7分に1種?)

原因: 生息域の消失、分断、汚染、また、乱獲

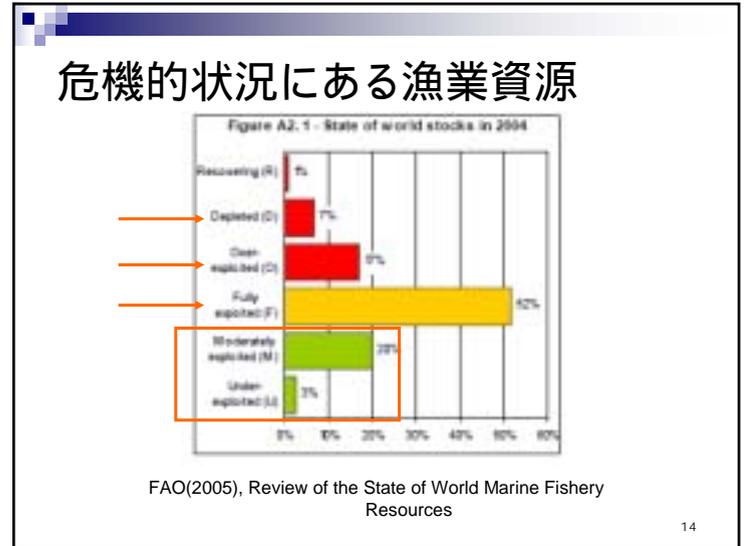
生息域の消失の例)

- 1950年からの40年間で森林や草地の14%が消失
- 過去20年間に沿岸のマングローブ林の約35%が消失
湿地、サンゴ礁、山岳生態系...

『環境要覧2005 / 2006 地球・人間環境フォーラム』



13



14

生態系・生物多様性の消失
= 環境的、倫理的な側面

自然資源自体が枯渇
= 輸入・消費の持続可能性もなくなっ
てきている

自らの存続のためにも、配慮は不可
欠となってきている

15

なぜ「原材料調達」における配慮か？
現地社会に対する責任

16

現地社会に対する大きな影響

例)

- 地元住民の強制移転
 - 少数民族の慣習的土地利用権の侵害
 - 地元住民の自然資源利用(食用植物、薬草、樹液、工芸品材料、はちみつなど)
 - 公害による健康被害
 - 社会構造の変化
- 資源の受益者・利用者としての「責任」

17

サプライチェーンを遡ってみると

18

鉱物資源生産の典型例

- 鉱山開発の生態系・社会影響
森林伐採、表土の除去、陸域、海域生態系
現地住民の権利
先住民の生活・文化への影響
住民移転
- 操業中の影響: 残渣の投棄、廃液
残渣投棄
鉱山廃液の流出事故
土壌汚染、水質汚染、人間の健康被害
- 労働環境

19



20

違法伐採木材の流れ



Telapak調査 21



- 漁業資源は減少しているが、漁獲高は維持
- 最新型の機材をつんだ大型漁船による一網打尽の漁法
- 養殖のための沿岸生態系へのインパクト(エビとマングローブなど)
- 養殖による水質汚染、残留性有機汚染物質の生態系への蓄積、野生種への影響

22



『環境要覧2005 / 2006 地球・人間環境フォーラム』

23

原材料調達を持続可能性

共通する考え方

トップランナーをなるべく買う：
例：MSC、FSC、オーガニック・
コットン、フェアトレード製品

段階的
引き上げ

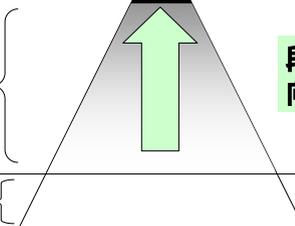
段階的引き上げに
向けた支援

買わない

何らかのチェック、モニタリング

ミニマムライン

違法木材、
レッドリスト記載種
ホットスポットに影響
を与える開発など



問題解決を阻むもの

- 遠い生産地：(距離、情報、想像力?)
- 複雑なサプライチェーン 認識の限界
- 発展途上地域における限界
- 個々の企業における取組の限界
- 無視される環境・社会コスト
(誰が担うのか?)
- 「よいもの」はまだ少数
認証木材(FSCなど)、認証魚介類(MSCなど)、
フェアトレード……

25

問題解決への留意点

- 現実を知ること
過去の経験から学ぶ
NGOからの指摘
- グッド・プラクティスを知ること
事例収集
企業の取組
- 現場でのよりよい取組を促進する仕組みをつくること
需要の創出
生産者への支援

26

各主体の取組の推進

- 調達方針の策定(各企業)
主要素材、問題が指摘されている原材料のリスク評価、生産地の把握、目標・ボトムラインの検討、サプライヤー評価など
- 基準、ガイドラインづくり、認証
(国際社会)
参加・議論の意味
「何が持続可能なのか？」
認証されたものを買う積極性

27

各主体の取組

- 責任のある融資(融資機関)
融資ガイドライン：「原生林 / 貴重な生息域における開発には融資しない」など
環境・社会面からの審査
- 生産地への支援(パイアーズ・グループ?)
生産地の持続可能性確立に向けた取組を支援、促進できないか?
- 国策としてのオプション
資源戦略立案、公的資金の流れの監視
調査・研究、議論のための「共通の場」の提供、
ODA戦略への組み込み

28

調達方針の例

- B&Q(木材)
- マークス&スペンサー(魚、綿、木材)
- キャドバリー・シュウェプス(カカオ、食用油、ナッツ類など)
- センズベリー(魚、パーム油など)
- ユニリーバ(農産物など)
- 日本でも、特に紙の分野で取組が進展
リコー、キヤノングループ、富士ゼロックス、
王子製紙、アスクル、三菱製紙、日本製紙

29

No Buyer, No smuggling...

「買う人間がいるからこそ、
密輸がなりたつんだ」

(ある上海の違法伐採木材の密輸業者の言葉)

Telapak調査より

30

ご静聴ありがとうございました。

ご意見をお寄せ下さい。

満田夏花(みつた・かんな)

E-mail: kanna.mitsuta@nifty.com

31